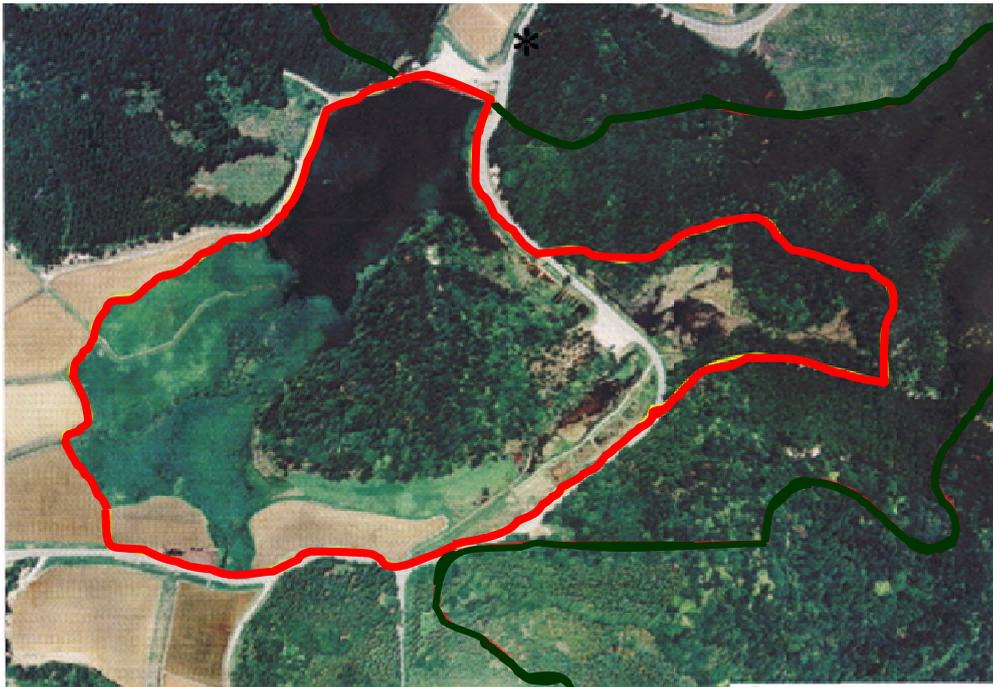


かしばる  
檜原湿原地区自然再生協議会



自然再生の対象となる区域（全体構想より）



かつては開放水面だった場所が  
低木林化



ミズゴケの堆積、ミツガシワの繁茂



ミズゴケの堆積による陸化

○檜原湿原地区自然再生事業実施計画に基づき、平成17年度事業を実施 →現在モニタリング調査を実施



開放水面の減少、陸化が進行



開放水面の拡大

ふしのがわ  
**榎野川河口域・干潟自然再生協議会の取組**

## 1 再生内容

干潟の再生

榎野川河口干潟等の自然環境の再生・維持に取り組む。

## 2 自然再生協議会

平成16年8月に組織化し、現在の構成員数57。

個人(専門家を含む)22、団体20、関係地方公共団体11、関係行政機関4

## 3 自然再生全体構想

平成17年3月に作成。

### ○自然再生の対象区域

榎野川河口域、干潟(344ha)及び山口湾。

### ○自然再生の目標

榎野川河口干潟等の現況、榎野川流域での変遷や変化を把握し、河口干潟等の再生の目標を「里海の再生」と位置づけて取り組む。

①豊かな泥干潟の区域、②豊かな砂干潟の区域、③カブトガニ産卵場保全区域、④豊かなアマモ場・浅場、⑤豊かな泥浜・レク干潟、⑥豊かな後浜(後背地)の区域、⑦現状干潟の観察・維持区域の7つにゾーニングして目標達成を目指す。

## 4 自然再生事業実施計画

検討中。

### 【進捗状況】

底質環境の改善のため、中潟においてカキ殻高密度分布域でのカキ殻粉砕(5,600m<sup>2</sup>)、耕耘(5,600m<sup>2</sup>)を実施。また、南潟において、砂干潟地区での耕耘(平成17年度より年2回)を実施。